

夢×喜び×やりがい
医学および看護学の発展を図り、
地域社会さらには広く人類の福祉に寄与する

公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

所在地：
〒634-8521
奈良県橿原市四条町840
0744-22-3051(内線 2224)
基礎医学棟4F

奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

講座メンバー

教授	非常勤講師		
今村 知明	康永 秀生	町田 宗仁	金沢大学 医薬保健 研究域学系(医学部) 国際保健学 教授
准教授			
赤羽 学	小池 創一	小川 俊夫	(自治医科大学 地域医療学センター (地域医療政策部 門) 教授)
講師			
野田 龍也	神奈川芳行	清水多嘉子	(JR東日本健康推進 センター 労働衛生科 医長)
学内講師	甲田 勝康	御興久美子	(近畿大学医学部 公 衆衛生学教室 准教授)
教務職員	教室職員		
野口 久美子	吉村満美子	片岡 香苗	三宅 好子
	松村 美弥	豊國 佳子	吉田 有希

1 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

臨床教授

山田 全啓	(奈良県中和保健所長、奈良県保健所長会会長、 近畿保健所長会幹事、全国保健所長会監事)
白阪 琢磨	(大阪医療センター 臨床研究センター エイズ先端医療研究部長)
上野 満久	(奈良市保健所長)
根津 智子	(奈良県医療政策部保健予防課参事)
笠松 美恵	(厚生労働省 大阪検疫所長)
片山 友子	(厚生労働省 関西空港検疫所長)
上平 朝子	(大阪医療センター 感染症内科科長)
橋本 和子	(奈良県郡山保健所長)

臨床准教授

渡辺 一郎	(東京検疫所東京空港検疫所支所支所長、前 奈良県医療政策部長)
倭 正也	(りんくう総合医療センター 感染症センター長)
林 修一郎	(奈良県医療政策部長)

講座メンバー

2 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

講座メンバー

大学院博士課程	大学院修士課程	博士研究員
平成25年度入学 吉本 和樹	平成27年度入学 中西 康裕	杉浦 弘明 (すぎうら医院)
平成26年度入学 今井 信也	西本 莉紗恵	佐野 友美 (関西空港検疫所)
加藤 礼識	吉井 克昌	田村 光平 (西多摩保健所)
平成27年度入学 岸本 美和	久保慎一郎	松本 伸哉 (日本テラデータ株式会社)
平成28年度入学 吉原 真吾	伊藤 雪絵	森川 英子 (人間環境大学)
西岡 祐一	前屋敷明江	専修生
峯 昌啓	佐守 真実(医学科)	平野 展代 ((社)日本食品安全支援機構)
	明神 大也	河本 慶子 (近畿厚生局)
研究医養成		リサーチ・アシスタント
コース		森本 拓馬(医学科3年) 三好 真結(看護学科4年)
新居田 泰大 (医学科5年)		目戸由華里(看護学科4年) 趙 聖櫻(看護学科3年)
		古川加奈子(看護学科4年) 大川 葵(看護学科3年)
		光浪麻由香(看護学科3年)

3 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

◇お知らせ◇

講座名称が変わります(時期未定)

健康政策医学講座

↓

公衆衛生学講座

地域健康医学講座は、疫学・予防医学講座へと名称変更の予定です

4 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

担当分野

- 公衆衛生
- 医療政策
- 医療経営

特に

- 健康政策
- 健康危機管理、食品保健、リスクコミュニケーション
- 医療政策
- 病院経営、医療経済、医師・看護師需給
- 再生医療

等

5 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

担当授業

医学科	3年生	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	6授業時間
	4年生	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	30授業時間
看護学科	4年生	公衆衛生学実習	1週間
	3年生	公衆衛生概論	1単位
看護学科	3年生	保健統計学	3授業時間

6 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

平成28年度 衛生学・公衆衛生学Ⅱ 講義

*開講日(H28) 対象：4年生 118名 平成28年度 衛生学・公衆衛生学Ⅱ 講義

日程	曜日	1日目 9:30-10:00	2日目 10:10-11:10	3日目 11:20-12:20	4日目 13:10-14:10	5日目 14:20-15:20	6日目 15:30-16:30
5月29日	(金)	公衆衛生概論 今村	社会と健康・衛生行政 今村	感染症対策 今村			
6月8日	(木)				保健医療 今村	福祉政策と 医療・在宅医療 野田	日本の医療介助の現状と課 題 国際医療福祉大学 長橋 尊 先生
6月16日	(木)	今村 准教授 特別講義 使用教室：臨床第1講義室	野田 准教授	日本 野田	国の医療、介護担当委員会、医師と患者、介護者 への対応 国際医療福祉大学 長橋 尊 先生	高齢者保健 今村	看護学 野田 崇仁先生
6月20日	(月)	※実習日程 演習センター(1) 平成28年10月9日(月) 演習 平成28年10月4日(水)～10月7日(土) 実習開始日 平成28年11月2日(水)			保健・医療・福祉の資源 野田	高齢者保健 今村	シミュレーション講義 今村
6月27日	(月)				精神保健福祉 野田	医療経済 今村	医療経営 今村
7月1日	(金)	※試験日程 10月17日(月)2限			産業界 山澤 泰典先生	産業界 山澤 泰典先生	国際医療福祉大学 小川 俊夫 先生
7月5日	(火)	食品保健・健康 栄養 野田	奈良県医療政策部保 健予防課 藤澤 智子先生	実習 オリエンテーショ ン			
7月8日	(金)				生活習慣病リスク 評価と予防 国際医療 福祉大学 長橋 尊先生	介護保険 伊加藤 利子先生 小澤 朝一先生	医療・厚生関係法規・ 診療録 赤羽
7月15日	(金)				環境保健 赤羽	小児保健(母子保健・学校保健) 近畿大学 平田 晴彦先生	
7月21日	(木)				CBT対策講義(医療従事者の義務の2と5) 野田		

7 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策

①食品への毒物混入事件発生時の迅速な対応

● 保健所や地方衛生研究所での迅速な事件対応が不可欠

毒物混入事件発生時の迅速な対応

● 保健所の毒物混入事件発生時の迅速な対応が不可欠

②海外における食品防御対策の動向把握

特に関、米国の動向は注視が必要

- 食品安全強化法(FSMA)の成立(2011年1月)
- 2013年12月、FSMAによって義務付けられる「**意図的な毒物混入に対する食品防御**」に関する**業務指令書(210 CFR part 121)**を公布
- FSMAでは、意図的な毒物混入について、最も脆弱性が高い工程を特定し、全ての食品企業へ**食品防御対策**を義務化しようとしている。
- ISOをはじめ、世界中で食品防御対策が動いている。

③食品防御体制の充実による故意混入の未然防止

● 食品工場・物流施設への実態調査を実施

故意による毒物混入に対する予防対策

食品防御ガイドラインの改善検討

④食品防御や食中毒の早期検知による被害拡大防止

● 食品監視調査(PAM)で過去に取ったデータを活用し、分析精度の向上を行う。

食品監視調査(PAM)実施状況	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
調査対象施設数	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
調査実施施設数	980	1,050	1,050	1,050	1,050
調査実施率	89%	95%	95%	95%	95%

マルハニチロ株式会社

「アクリフーズ」農業混入事件に関する第三者検証委員会

平成26年1月31日「アクリフーズ」農業混入事件に関する第三者検証委員会が設置され、品質保証体制と危機管理体制の問題点について客観的な視点からの検証と評価を行ってきました。

平成26年5月29日、本委員会の最終報告(提言)を取りまとめました。

概要

平成25年末に発生した**冷凍食品への農業混入事案**を受け、マルハニチログループは様々な専門家で構成される「**農業混入事件に関する第三者検証委員会**」を設置しました。本委員会は発足以来、計11回の会合を重ね、関係者延べ80人の詳細なヒアリングを実施し、群馬工場も視察し検証を行いました。

第三者検証委員会のメンバー

委員長	全社知明	奈良県立医科大学 健康政策医学講座教授
副委員長	赤羽学	奈良県立医科大学 健康政策医学講座准教授
委員	鬼武一夫	日本生活協同組合連合会 品質保証本部 安全政策推進部長
委員	久保利 英明	日比谷パー法律事務所代表弁護士 大宮法科大学院大学教授
委員	松本 和紀	一般社団法人「Food Communication Compass」代表 科学ライター
委員	山本 茂貴	東海大学 海洋学水産学水産学教授

健康政策医学 研究内容

TBSラジオ 生出演

冷凍食品の農業混入問題から考える 食の安全を守る「フードディフェンス」とは?

市販用包装冷凍食品(鶏肉) - (AND-1)

8日(水)のテーマは「**冷凍食品への農業混入**をきっかけに改めて考える。私たちの「**食の守り方**」」が主軸は**消費者問題研究所代表の堀田達哉**さん、**奈良県立医科大学教授の今村知明**さん(番組Tweetsより)

2014年1月8日(水)

22時~24時55分

TBSラジオ 生出演 赤羽学Session22 (22時40分~23時40分) 今村知明が生出演



2014年1月27日(月)

21時30分~23時

生出演 赤羽学Session21 (21時50分~22時50分) 今村知明が生出演

健康政策医学 研究内容

中国期限切れ鶏肉事件 専門家として意見を求められる

原材料の常時監視 困難

中国産ナゲット 関西への影響は?

今村知明教授

少しでも憂いいつもと感じが違うものについては

2014年7月23日(水)

関西TVニュース-JANOR 取材風景

2014年7月24日(木)

読売新聞 原材料の常時監視困難
朝日新聞 中国依存の食、シナマ 期限切れ 鶏肉、5人拘束 安さと不正防止、
毎日新聞

健康政策医学 研究内容

オリンピック・パラリンピック東京大会における食品テロ 防止対策事業

オリパラFD班

採択研究課題

参加メンバー

- 今村知明 ● 赤羽学
- 神奈川芳行 (JR東日本)
- 高谷 幸 (日本食品衛生協会)
- 食品防御班メンバー

採択研究課題

平成28年度日本競馬会畜産振興事業

オリンピック・パラリンピック東京大会における食品テロ防止対策事業

- ◆ 研究代表者: 今村知明
- ◆ 平成28年4月~平成31年3月 3年計画 本年度1年目

事業の必要性・緊急性

2020年オリパラ東京大会では、国内外1,000万人以上の来訪者に対する料理提供が見込まれる

- 過去のオリパラでは**幾度もテロリストの攻撃対象**となっている。
- 我が国の料理提供事業者は、食品テロに見舞われたことがなく、**食品テロ防止の取組は遅れ**ており、過去の大規模国際イベントで食品テロ対策の実績はなく、**知見の蓄積がない**。海外では2012年ロンドン五輪で食品テロ対策が行われたが、この情報も入手困難。
- 料理提供事業者による**食品テロ対策について**、取り組みやすく**実効性の高い形で構築**するとともに、指導等の支援を行い、**大会が始まるまでに事業者の取組を完了させる必要がある**。

事業内容

- 大会における食品テロ対策の方向性の検討**
 - ✓ 検討会の設置
 - ✓ 食品テロの未然防止対策、発生時の事業者の初動対応及び関係機関との連携方法等の検討
- 大会向け食品テロ対策等に関する調査研究**
 - ✓ 事業者ヒアリング
 - ✓ 国内外の事業者における大規模イベント時の食品製造・輸送・提供機会の現状、食品テロ対策の実情等の事例調査
- 大会向け食品テロ対策の普及促進**
 - ✓ 事業者向けガイドライン、従業員教育支援ツールの開発
 - ✓ 食品テロ対策普及促進セミナーの開催

農林水産省

「食品への意図的な毒物等の混入の未然防止等に関する検討会」

農林水産省は、平成26年4月から、「食品への意図的な毒物等の混入の未然防止等に関する検討会」を開催してきました。

平成26年6月27日、本検討会の報告書を取りまとめました。

概要

平成25年末に発生した**冷凍食品への農業混入事案**を受け、農林水産省は、政府全体の取組に沿って、食品事業者等における意図的な毒物等の混入を未然に防止する取組を推進するため、外部有識者からなる本検討会(消費・安全局長主催)を4月に立ち上げ、3回にわたり検討を行いました。

委員名簿

委員長 全社知明	奈良県立医科大学 健康政策医学講座教授
大隅 和昭	一般社団法人 日本農業協会 教育専ら部長
鬼武 一夫	日本生活協同組合連合会 品質保証本部 安全政策推進部長
折井 雅子	サントリービジネスエキスパート株式会社 常務取締役 お客様リレーション本部長
池田 洋行	東日本旅客鉄道株式会社 JR東日本健康推進センター 労働衛生部長
川崎 一平	一般社団法人 食品産業センター 技術部長
関川 和幸	一般社団法人 日本フードサービス協会 専務理事
高谷 幸	公益社団法人 日本食品衛生協会 専務理事
中島 正	日本チェーンストア協会 総務委員会取引委員会委員
松本 和紀	公益社団法人 食の安全・安心財団 理事・事務局長
長谷川 俊明	長谷川俊明法律事務所 代表弁護士
松本 和紀	科学ライター

健康政策医学 研究内容

新聞・メディアへの取材・執筆 多数協力

『冷凍食品農業混入事件』を受けて

2014年2月7日 毎日新聞「論点」

2014年2月8日

2014年1月27日(月) 読売新聞「JANOR 取材風景」

2014年1月27日(月) 読売新聞「JANOR 取材風景」

2014年1月27日(月) 読売新聞「JANOR 取材風景」

2014年1月27日(月) 読売新聞「JANOR 取材風景」

2014年1月27日(月) 読売新聞「JANOR 取材風景」

健康政策医学 研究内容

カネミ油症コホート調査 ダイオキシンの健康影響追跡調査

カネミ班

参加メンバー

- 今村知明 ● 赤羽学
- 松本伸哉 (ラデータ、当講座博士研究員)
- 神奈川芳行 (JR東日本)
- 古江増隆 (九州大学大学院医学研究院 皮膚科学分野 研究代表者)

採択研究課題

平成27~29年度**厚生労働行政連携推進事業費補助金(食品の安全確保推進研究事業)**カネミ油症に関する研究

食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究 (H27 食品-指定-017)

- ◆ 研究代表者: 古江増隆 (九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野)
- ◆ 研究分担者: 赤羽学
- ◆ 平成27年4月~平成30年3月 3年計画 2年目

研究内容

油症患者と非油症患者における健康実態の比較検討と 血中ダイオキシン類濃度の半減期に関する研究

- ◆ 過年度までに非油症患者に対して行ってきた健康実態調査結果を、油症患者の健康実態と詳細に比較するために多変量解析等を用いた検討を行い、油症患者の健康実態を明らかにする
- ◆ 血中ダイオキシン類濃度の半減期の推測が可能であるかの検討
- ◆ 血中ダイオキシン類濃度の半減期を詳細に推測するためには、各患者の体重や体脂肪率等の変化を考慮する必要があることが判明
 - > 成長期の子供のように年々体重が増加する場合には、その変化は半減期と強く結びついて現れるので推測は比較的容易であるが、成人の体重の増減は各個人によって異なる
 - > 体重以外にも血中脂質濃度など調査期間内の測定値が増減する項目がある

健康政策医学 研究内容

カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査

結果5：新たに油症との関連の検討が必要と思われた症状⑤

1.5倍以上高かった症状
★ 3倍以上高かった症状

24 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

消防庁救急患者(ウツタイン)データの解析グループ

ウツタイングループ

参加メンバー
●野田龍也 ●赤羽学 ●今村知明 ●西岡祐一
●小川俊夫(国際医療福祉大学大学院准教授)
●田邊晴山(救急救命東京研修所 教授)

研究内容
都道府県におけるAED導入の関連費用を推計したうえで、その費用対効果を推計することを目的として実施する。さらに、地域の健康安全・危機管理対策の視点でAED導入の負担と効果について考察を実施し、危機管理の観点からAEDの適正台数についても提言を実施する。

◆抽出した都道府県におけるAED関連費用の推計
◆「ウツタイン統計データ」を用いた費用対効果分析手法の検討

院外心臓停止症例のアウトカムに対する男女差の影響
V F / V T 症例を除外した場合

26 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

健康問題にかかるリスクコミュニケーション研究

リスコミ班

参加メンバー
●今村知明
●岡本左和子
●五十君 静信(東京農業大学 教授・研究代表者)

研究内容
「遺伝子組換え食品の安全性に関するリスクコミュニケーション」
「医療」「健康被害事件」のリスクコミュニケーション手法の開発～確立へ

◆GM食品(GM動物、ハイブリッド、新開発品種等)に関する調査研究
◆最新のNBT(セルフレコーディング、ナチュラルオケレンスを含む)に関する調査研究
◆最先端のGM-NBT技術の整理とコミュニケーション上の問題点の抽出
◆説明ロジックおよび説明ツールの開発、先進国や食品以外の分野における事例調査
◆リスクコミュニケーション手法の開発
◆GM作物・食品の社会的需要におけるクリティカルポイントの特定と、コミュニケーションツールの改善
◆NBTに関するコミュニケーションツールの開発

28 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

国際疾病分類「ICD11」の作成に向けての調査研究

ICD班

参加メンバー
●今村知明(研究代表者)
●小川俊夫(国際医療福祉大学大学院 准教授)
●今井 健(東京大学大学院医学系研究科 講師)
●中谷純(東北大学大学院 非常勤講師)
●興根真英(自治医科大学・企画経営部医療情報部 准教授)
●田嶋尚子(自治医科大学 名誉教授)

研究内容
●医療における情報活用を行う上での適切な疾病分類をとりまとめることを目的
●WHOが着手しているICD-11検討の場での我が国としての基礎資料の作成
●ICD:死亡統計のみならず、患者調査、医療保険制度(DPC等)、診療情報管理等、広く医療情報全般において活用→ICDの活用領域が拡大
●医療情報の電子化
→ICDは更に多くの場面で活用
●情報を分析可能なデータベースとするために、国際疾病分類であるICDの活用も一層拡充
→その重要性も益々アップ

30 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

カネミ油症コホート調査 ダイオキシン類の健康影響追跡調査: 主な論文

- A technique for identifying three diagnostic findings using association analysis
Tomooki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Shiro Matsuya, Masutaka Furue and Hiroshi Oyama. **Medical and Biological Engineering and Computing**
- Relationship between clinical features and blood levels of pentachlorodibenzofuran in patients with Yusho
Tomooki Imamura, Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Bunichi Tajima, Takeshi Uenotsuchi, Satoko Shibata, Masutaka Furue. **Environmental Toxicology**
- Association of clinical findings in Yusho patients with serum concentrations of polychlorinated biphenyls, polychlorinated quaterphenyls and 2,3,4,7,8-pentachlorodibenzofuran more than 30 years after the poisoning event
Yoshiyuki Kanagawa, Shinya Matsumoto, Soichi Koike, Bunichi Tajima, Noriko Fukiwaki, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Masutaka Furue and Tomooki Imamura. **Environmental Health**
- Variation in Half-life of Penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) Blood Level among Yusho Patients
Shinya Matsumoto, Manabu Akahane, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Takesumi Yoshimura, Chikage Mitomada, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Masutaka Furue and Tomooki Imamura. **Chemosphere**
- Twenty-year changes of penta-chlorodibenzofuran (PeCDF) level and symptoms in Yusho patients, using association analysis
Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Manabu Akahane, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, Masutaka Furue and Tomooki Imamura. **BMC Research Notes**
- Cutaneous symptoms such as acneform eruption and pigmentation are closely associated with blood levels of 2,3,4,7,8-penta-chlorodibenzofurans in Yusho patients, using data mining analysis
Tomooki Imamura, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Bunichi Tajima, Shiro Matsuya, Hiroshi Uchi, Satoko Shibata, Masutaka Furue, Manabu Akahane, Soichi Koike. **BMC Research Notes**
- ESTIMATION OF PENTA-CHLORODIBENZOFURAN (PeCDF) HALF LIFE IN YUSHO PATIENTS
Manabu Akahane, Shinya Matsumoto, Yoshiyuki Kanagawa, Soichi Koike, Chikage Mitoma, Satoko Shibata, Hiroshi Uchi, Takesumi Yoshimura, Masutaka Furue, Tomooki Imamura. **Organohalogen Compounds**

25 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

消防庁救急患者(ウツタイン)データの解析グループ: 主な論文

- The effects of sex on out-of-hospital cardiac arrest outcomes
院外心臓機能停止患者の予後の男女差について
Manabu Akahane, Toshio Ogawa, Soichi Koike, Seizan Tanabe, Hiromasa Horiguchi, Tatsuhiro Mizoguchi, Hideo Yasunaga, and Tomooki Imamura. **The American Journal of Medicine**
- Outcomes of chest compression-only CPR versus conventional CPR: A nationwide, population-based, observational study of bystander-witnessed out-of-hospital cardiopulmonary arrest cases
心でのみと心マド人工呼吸の予後について
Toshio Ogawa, Manabu Akahane, Soichi Koike, Seizan Tanabe, Tatsuhiro Mizoguchi and Tomooki Imamura. **British Medical Journal**
- Immediate defibrillation or defibrillation after cardiopulmonary resuscitation
CPRと除細動のどちらが先か
Soichi Koike, Seizan Tanabe, Toshio Ogawa, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Shinya Matsumoto, Tomooki Imamura. **Prehospital Emergency Care**
- Effect of time and day of admission on 1-month survival and neurologically favourable 1-month survival in out-of-hospital cardiopulmonary arrest patients
病院搬送の曜日・時間と予後について
Soichi Koike, Seizan Tanabe, Toshio Ogawa, Manabu Akahane, Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Shinya Matsumoto, Tomooki Imamura. **Resuscitation**
- Collaborative effects of bystander-initiated cardiopulmonary resuscitation and prehospital advanced cardiac life support by physicians on survival of out-of-hospital cardiac arrest: a nationwide population-based observational study
バイスタンダーによるCPRと医師による病院収容前の治療効果に関する研究
Hideo Yasunaga, Hiromasa Horiguchi, Seizan Tanabe, Manabu Akahane, Toshio Ogawa, Soichi Koike and Tomooki Imamura. **Critical Care**
- Population density, call-response interval, and survival of out-of-hospital cardiac arrest
人口密度と発生率について
Hideo Yasunaga, Hiroaki Miyata, Hiromasa Horiguchi, Seizan Tanabe, Manabu Akahane, Toshio Ogawa, Soichi Koike and Tomooki Imamura. **International Journal of Health Geographics**

27 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

健康問題にかかるリスクコミュニケーション研究

● 風評被害の発生は、消費者等における不確かなリスクや不安定なリスクに対する、本来のリスク以上の反応
⇒ 「見えぬもの」に過剰に怯える様子から
■ 風評被害 (Global effect) と呼称

● リスクは一般風評によって過大評価されること
● リスクコミュニケーションの欠如は、この過剰な反応を助長
● 社会的リスクは「見えぬもの」に過剰に怯える様子から

● 日本国内で発生したBSE、鳥インフルエンザの両事件では、美幸(CG)、新野(インフルエンザ)が未発生にもかかわらず、事件発覚後、社会的リスクが急増

● 事件が社会問題化したこと、一般消費者の買い控えが波及的に影響したと推測

● 社会がリスク以上に反応してしまう過剰反応

● 風評被害の発生は、消費者等における不確かなリスクや不安定なリスクに対する、本来のリスク以上の反応

● 風評被害 (Global effect) と呼称

● リスクは一般風評によって過大評価されること

● リスクコミュニケーションの欠如は、この過剰な反応を助長

● 社会的リスクは「見えぬもの」に過剰に怯える様子から

● 日本国内で発生したBSE、鳥インフルエンザの両事件では、美幸(CG)、新野(インフルエンザ)が未発生にもかかわらず、事件発覚後、社会的リスクが急増

● 事件が社会問題化したこと、一般消費者の買い控えが波及的に影響したと推測

● 社会がリスク以上に反応してしまう過剰反応

● 風評被害の発生は、消費者等における不確かなリスクや不安定なリスクに対する、本来のリスク以上の反応

● 風評被害 (Global effect) と呼称

● リスクは一般風評によって過大評価されること

● リスクコミュニケーションの欠如は、この過剰な反応を助長

● 社会的リスクは「見えぬもの」に過剰に怯える様子から

● 日本国内で発生したBSE、鳥インフルエンザの両事件では、美幸(CG)、新野(インフルエンザ)が未発生にもかかわらず、事件発覚後、社会的リスクが急増

● 事件が社会問題化したこと、一般消費者の買い控えが波及的に影響したと推測

● 社会がリスク以上に反応してしまう過剰反応

29 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究関連情報

今村関連業務について

法人特命企画官

- 中期計画の着実な推進や20年後のトップ10入りを目指すための取組みの構築など理事長の特命事項を担当する
- 平成25年度から

31 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

「法人特命企画官」としての仕事

病院運営

- 附属病院の経営にも深く関わっている
 - 例えば、2年に1度の診療報酬改定時期には、中医協発表資料を常時精査し診療報酬改定における主要改定項目を独自にまとめあげ、病院経営・運営会議や病院運営協議会において頻回にプレゼンを行っている
- ↓ 奈良医大附属病院の運営に直接関わる非常に重要な示唆を行っている
- 診療報酬改定等の社会の変化が大学病院にどのような影響を与えるかの調査研究を集中的に行い積極的に公表し、合わせてこれらの分析結果を当大学附属病院の運営に当てはめ、適切な対策の企画立案を行っている
 - 結果、奈良医大附属病院の収益では、着任当初の平成19年度は229億円だったものが、平成23年度は290億円、平成26年度は334億円と増加した
 - これは奈良医大附属病院運営の方針決定に際し、継続して支援を行ってきたことも寄与
- ↓ 奈良医大附属病院の経営に多大な貢献をしている

「法人特命企画官」としての仕事

大学企画・運営

- 大学での企画業務の大学移転・建替計画
 - 【例】「臨床研究棟の建て替え計画案」「移転に伴う道路拡張についての調査」
- 法人運営・財務に関する提案
 - 【例】「中期目標の期間の最後の事業年度における会計処理について」「年度末の現金資産化計画 その項目と決定時期について」「第2期中期計画期間の大学財務目標について」
- 大学関係者への情報提供
- 大学関係の学内委員会
 - 中長期計画推進委員会 ● 中期計画企画運営・調整部会
 - 中期計画推進委員会 施設整備部会 ● 大学移転検討委員会ワーキング会議

厚生労働省 医療計画等の委員

医療計画の見直し等に関する検討会

＋地域医療構想に関するワーキンググループ

平成30年度からの次期医療計画をより実効性の高いものとするため、現行の医療計画の課題等について整理し、計画の作成指針等の見直しについて検討する【検討事項】(月1回程度開催し、本年12月を目途に取りまとめを行う)

- (1) 医療計画の作成指針等について
- (2) 医療計画における地域医療構想の位置付けについて
- (3) 地域包括ケアシステムの構築を含む医療・介護の連携について
- (4) その他医療計画の策定及び施策の実施に必要な事項について

脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る診療提供体制の在り方に関する検討会

＋脳卒中に係るワーキンググループ
＋心血管疾患に係るワーキンググループ

循環器病に係る医療又は介護に要する負担の軽減を図ることが喫緊の課題となっているため、国民の健康寿命の延伸等を図るため、脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る診療提供体制の在り方について検討する【検討事項】(検討会・WG月1回程度開催し、本年10月末を目途に中間取りまとめを行う)

- (1) 循環器病に係る急性期診療提供体制の在り方について
- (2) 循環器病に係る慢性期診療提供体制の在り方について
- (3) その他循環器病診療提供体制に関する事項について

奈良県地域医療ビジョン策定戦略会議

- 基本命題 **地域医療における需要と供給を、質と量の両面からマッチングするしくみをどのように構築するか**
- 「地域医療構想(ビジョン)」は県が医療計画の一部として作成
 - 会議は、県が構想案を策定する第一段階として設定された
 - 県内外の有識者らと知事・副知事・医療政策部長が専門的な見地から意見を出す場

メンバー	氏名	役職	分野
委員長	荒井 正吾	知事	行政
委員長代行	前田 努	副知事	行政
委員	秋山 正子	NPO法人 白十字在宅ボランティアの会 / 暮らしの保健室 室長ほか	在宅ケア
	今村 知明	奈良県立医科大学 健康政策医学教授	医療政策・医療経営
	上田 裕一	奈良県総合医療センター 総長	医療
	久野 謙也	筑波大学体育系教授	健康政策
	高橋 泰	国際医療福祉大学大学院 教授	医療経営・医療制度
	渡辺 顕一郎	医療政策部長	行政

「法人特命企画官」としての仕事

病院運営

- 附属病院運営に関する企画立案
 - 【例】「病床稼働率の低下とその後の対策について」「機能評価係数Ⅱについて」「病院の運営方針決定のために公立病院で必要になる考え方と会計」「手術中止症例から見えてきた手術室の現状」
- 病院関係者への情報提供
 - 【例】「一般病棟入院基本料の見直しについての影響」「DPC対象病院・準備病院の現況について」「平成25年度機能評価係数Ⅲについて」「看護師特定認証について」
- 診療報酬改定に係る中医協資料の読み込み作業と病院運営協議会等でのプレゼン業務
 - 【例】「平成24年度の診療報酬改定における中医協の審議状況等について」「平成24年度診療報酬改定の概要と詳細について」
- 病院関係の学内委員会
 - 病院運営協議会 ● 病院経営・運営会議 ● 看護職員確保対策会議 対策本部
 - 新棟手術室検討委員会、中央手術棟建設委員会 ● 医療情報システム運営委員会
 - コーヒーショップ設置運営候補者選定審査委員会

奈良医大将計画の検討会

将来像の検討体制

資料2 平成25年度人員配置

【例】 医大の将来像策定WG

【例】 キャンパス整備検討委員会

【例】 教育サブWG

【例】 研究サブWG

【例】 診療サブWG

【例】 まちづくりサブWG

【例】 総務経営会議

【例】 キャンパス整備検討WG

教職員・学生

厚生労働省 社会保障審議会専門委員としての仕事

厚生労働省 老健局老人保健課 社会保障審議会専門委員

- 社会保障審議会介護給付費分科会 介護報酬改定検証・研究委員会
- 内容：介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査の結果や、今後の調査の進め方・実施内容について検討する
- 介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査 (例)
 - 地域包括ケアシステムにおける有床診療所に関する調査研究事業「有床診療所における医療・介護の提供実態に関する調査」平成25年9月～平成26年3月31日 (委員長として参加)
 - 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査研究事業平成26年6月23日～平成27年3月31日 (委員長として参加)
 - 介護保険施設等における利用者等の医療ニーズへの対応の在り方に関する調査研究事業平成27年8月～平成28年3月31日 (委員長として参加)
 - 病院・診療所等が行う中重度者の医療ニーズに関する調査研究事業平成28年8月～平成29年3月31日 (委員長として参加)
 - 介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業平成28年8月～平成29年3月31日 (委員長として参加)

公立大学法人 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

他大学等学外での講義

氏名	所属	講義内容
今村先生	杏林大学・客員教授	「医療管理学」 H19～
赤羽先生	同志社女子大学	「医学概論」 H23～
	一医概論	「保健・医療統計」 H23～
	国公立大学病院看護管理者研修	病院経営 (千葉大学にて開催) H20～
	中央労働災害防止協会 大阪安全衛生教育センター	衛生工学衛生管理者コース H20～
	「労働生理に関する知識」	
	大阪市立大学	客員教授 H25～
	東京医療保健大学	客員教授 H25～
	大阪大学	非常勤講師 H27～
野田先生	金城学院大学	「公衆衛生学」 H26～
	愛知学院大学	「環境健康医学」 H26～
	浜松労働基準協会	作業主任講習 H26～
	「産業医学」	
岡本先生	大阪市立大学	「公衆衛生学」 H26～

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

他大学等学外での講義

大学院生 他担当

奈良県病院協会看護専門学校
「生活環境と健康」
①公衆衛生学概論 ②医療制度 ④国際保健
⑤保健統計、地域保健 ⑥環境保健、疫学・健康指標
⑦感染症1 ⑧感染症2 ⑨産業・学校・災害保健
⑩成人保健・生活習慣病 ⑪老人・介護保険 ⑫母子保健
⑬精神・難病保健 ⑭試験+解説 H21~

【担当講師】
大学院博士課程：加藤礼識

南大阪看護専門学校
「公衆衛生学」 15コマ H27~

【担当講師】
大学院博士課程：加藤礼識

40 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

骨の再生に関する研究(赤羽)

研究メンバー	研究費名	タイトル
赤羽 学(代表)	文部科学研究 基盤C	超高齢社会における社会政策のための医療・介護 サービス需要の高精度推計
面川庄平(代表) 赤羽 学(分担)	文部科学研究 基盤C	骨形成細胞シートを併用した骨延長術の有用性に 関する実験的研究
城戸 顕(代表) 赤羽 学(分担)	文部科学研究 基盤C	筋再生の分子機構を指標とした骨転移患者に 対する安全で効果的なりハビリテーション
田中康仁(代表) 赤羽 学(分担)	文部科学研究 基盤C	重症脊髄損傷に対する自家組織細胞シートを用いた 新規再生医療技術の開発
清水隆昌(代表) 赤羽 学 (研究協力者)	文部科学研究費 若手研究 (B)	広範囲骨欠損に対する骨形成細胞シートと血管束 移植を用いた新規骨再建法確立の試み
稲垣有佐(代表) 赤羽 学 (研究協力者)	文部科学研究費 若手研究 (B)	ナノコーティング技術により生体親和性および骨 形成能を向上した人工靭帯の開発
稲垣有佐(代表) 赤羽 学 (研究協力者)	鈴木謙三記念医科 学応用研究財団	ナノコーティング技術を応用した人工靭帯の骨親 和性向上の研究

41 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

共同研究・特許(赤羽)

共同研究

共同研究	テーマ
ユフ精器	アパタイトコートによる骨形成促進に関する予備検討
京都大学	フィブリンスポンジを用いた骨固定材料の開発
信州大学	シルクフィブリンを用いた人工骨
国立循環器病センター研究所	脱細胞処理技術を利用した人工神経の開発
労働安全衛生研究所	磁場による骨形成、筋形成の促進
関西電力	電気使用量の測定による生活見守り手法

他1社とも共同研究実施中(社名非公表)

特許

- 整形外科との共同研究内容で学内発明委員会の承認を得て、特許申請(内容非公表)
- 共同研究テーマでも特許を共同出願(内容非公表)

42 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

競争的資金(野田)

研究メンバー	研究費名	タイトル
野田龍也(代表)	文部科学研究 若手B	インターネット依存症：日本におけるスクリー ニングテストの開発
今村知明(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科 地域医療基盤開発 推進研究事業	病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等 のために必要となる実施可能な施策に関する研究
山本保博(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働行政推進 調査事業費 地域 医療基盤開発推進 研究事業	救急医療体制の推進に関する研究
中島八十一(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科 障害者政策総合 研究事業	高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会 参加困難への対応に関する研究
深津玲子(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科 難治性疾患等政策 研究事業	難病患者の福祉サービス活用によるADL向上に 関する研究
猪口貞樹(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働行政推進 調査事業費 地域 医療基盤開発推進	ドクターヘリの適正配置・利用に関する研究

43 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

競争的資金(野田)

研究メンバー	研究費名	タイトル
橋本修二(代表) 野田龍也(分担)	厚生労働科 政策科学総合研究 事業(統計情報総 合研究)	患者調査に基づく受療状況の解析と総患者数の推 計に関する研究

44 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

公立大学法人 奈良県立医科大学
健康政策医学講座

インターネット依存症：日本におけるスクリーニングテストの開発(野田)

背景 インターネット依存症は、医学的な疾患概念の構築に社会的関心が先行している。特に、診断の基礎となるスクリーニングテストは、1995年にYoungが暫定的に提唱したものが今も利用されており、ネット環境の激変や日米の文化の違いに対応できていない。

目的

- 現代のネット環境に即し、デバイス別(PC、スマホ等)の診断基準を確立する。
- ネットゲームやネットギャンブルよりもSNSやウェブ閲覧が主である日本のネット利用文化に即した診断基準を確立する。

方法 専門家を交えたデルファイ法で調査票を作成し、ネットの利用頻度により社会集団を層化して分析を行う。優れた診断基準・スクリーニングテストに必要な条件として、「妥当性」「信頼性」「文化横断的な妥当性」の3つがあり、これらを考慮しつつ、ネット利用の曝露量と内容、それらがもたらす有害性について、調査-再調査を行う。

45 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

医療コミュニケーションに関する研究(岡本)

医療コミュニケーションの中の専門分野

食品と医療のリスクに対する消費者(患者)の比較(手島氏)
研究分担者：今村先生 研究協力者：岡本
調査終了し分析中

患者の医療決断への支援
研究代表者：岡本
研究分担者：今村先生
調査終了し分析中。

論文：Okamoto S, et al. "Transformative possibilities of communication in medical error cases in Japan," the International Journal of Quality in Health Care, 23 (1), 26-35, 2011.

論文：Okamoto S, et al. "Values and risks of second opinion in Japan's universal health care system," Health Expectation, online published on February 2013.

論文：Tokuda Y, Okamoto S, et al. "The influence of medical jargon mixed with foreign terminology in the Japanese clinical environment," Internal Medicine, 47, 1329-1334, 2008.

論文：岡本左和子. 「患者—医師コミュニケーション：プロフェッショナルリズムを支えるために」日本内科学会雑誌 第99巻2号, p.161-166, 2010.

46 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究内容

医療コミュニケーションに関する研究(岡本)

リスク・コミュニケーション	患者・家族と医療従事者との関係を築くコミュニケーション	患者啓発・プロフェッショナルリズムにおけるコミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 被害発生前のリスク認知と安全確保 発生後の事態収束や解決の促進 医療安全 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の治療決断や前向きな姿勢をどのようにして導くか 患者満足の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 患者・家族の受療において必要な知識や積極的に取り組む考え方の支援 医療従事者間のチームワーク
<p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 福島第一原子力発電所事故後の消費者の当該地の食品に対する抵抗感と購買行動 患者の医療決断の支援のあり方 医療において有害事例が発生した後の効果的なコミュニケーションと関係回復など 	<p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者の医療決断までの考え方や行動を明確にし、医療側の支援の仕方を探る 医療における日々の不都合や不満がどのように蓄積して、患者の行動に結びつづのか その支援の仕方 医療対話推進者教育 	<p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導医教育におけるコミュニケーション・プログラム
<p>研究費(平成26~28年度)</p> <p>・基盤研究(C) 患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究 研究代表者：岡本左和子 研究分担者：今村知明先生</p>		

47 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究関連情報

関連委員会・審議会・会議：国・県・市町村関係

今村 知明

国の審議会委員

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 厚生労働省医薬食品局	薬事・食品衛生審議会 食中毒部会	委員	年3回
2 厚生労働省老健局	社会保障審議会 専門委員	委員	年4回
3 厚生労働省健康局	エイズ動向委員会	委員	年4回
4 厚生労働省健康局	エイズ対策研究事業事前評価委員会	委員	年2回
5 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構	エイズ対策実用化研究事業課題評価委員会	委員	申請書20本
6 厚生労働省老健局	平成28年度「病院・診療所等が行う中重度者の医療ニーズに関する調査研究事業」	委員長	年4回
7 厚生労働省老健局	平成28年度「介護老人保健施設における施設の目的を踏まえたサービスの適正な提供体制等に関する調査研究事業」	委員長	年4回
8 消費者庁	消費者委員会臨時委員 食品表示部会	委員長	年3回
9 厚生労働省	医療計画の見直し等に関する検討会、地域医療構想に関するワーキンググループ	構成員	
10 厚生労働省	脳卒中・心臓病その他の循環器病に係る診療提供体制の在り方に関する検討会、脳卒中に係るワーキンググループ、心血管疾患に係るワーキンググループ	構成員	
11 文部科学省高等教育局	「課題解決型高度医療人材養成プログラム」におけるペーパーレフェリー	ペーパーレフェリー	年1回
12 厚生労働統計協会	地域包括ケアの提供体制整備に係る研修・相談支援事業に係る企画書評価委員会	委員	年6回
13 全国健康保険協会東京支部	健康づくり推進諮問会議	委員	年5回
14 全国健康保険協会本部	全国健康保険協会健康・医療情報分析アドバイザー	アドバイザー	年5回

48 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究関連情報

関連委員会・審議会・会議：国・県・市町村関係

今村 知明

奈良県関係の委員

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 奈良県福祉部健康安全局 地域医療連携課	奈良県食品安全・安心懇話会	委員・委員長	年2回
2 奈良県健康長寿共同事業実行委員会	奈良県健康長寿共同事業実行委員会 有識者会議	委員・座長	年4回
3 奈良県後期高齢者医療広域連合	奈良県長寿医療懇話会	委員・座長	年4回
4 奈良県	奈良県高齢者保健福祉計画及び奈良県介護保険事業支援計画策定委員会	委員	年2回
5 奈良県	奈良県建築審査会	委員	年2回
6 奈良県	保健所関係機関所長・次長会	委員	年2回程度
7 奈良県	奈良県保健師人材育成推進検討委員会	委員	年2回程度
8 奈良県	奈良県地域医療構想策定会議	委員	年2回程度
9 奈良県保険者協議会	奈良県保険者協議会への助言		年2回程度

49 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究関連情報

関連委員会・審議会・会議：国・県・市町村関係

今村 知明

公的病院関係の委員

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 (社)全国自治体病院協議会	診療報酬対策委員会	アドバイザー	年1回
2 (社)全国自治体病院協議会	臨床指標評価検討委員会	委員	年3回
3 全国土木建築国民健康保険組合	厚生中央病院経営改善検討会	講師	年4回
4 済生会中和病院	済生会中和病院地域医療支援病院評議員会	委員	年3回
5 奈良県国保中央病院組合	奈良県国保中央病院改革プラン評価委員会	委員	年3回
6 富山市	富山市民病院経営改善委員会	委員	年1回
7 杏林大学医学部	病院管理学 学術運営顧問	客員教授	年6回
8 東京医療保健大学	東京医療保健大学スクリーニング委員会	委員	年3回

市町村関係の委員

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 橿原市	橿原市建築審査会	委員	年2回

学会・協会等の委員

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 日本公衆衛生学会	日本公衆衛生学会 地方試験委員会	委員	年2回
2 日本公衆衛生学会	日本公衆衛生学会 評議員	評議員	年2回
3 日本衛生学会	日本衛生学会 評議員	評議員	年1回

その他

省庁	職務内容	役職	開催頻度
1 奈良医大校内	柔道部部長	部長	4-12月 毎週火曜

50 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究関連情報

関連委員会・審議会・会議：学内関係、その他講座メンバー関係

赤羽 学

省庁	職務内容	役職
1 社団法人日本整形外科学会	Journal of Orthopaedic Science (JOS) editorial board member	Editorial board member
2 World journal of stem cells (WJSC)	World journal of stem cells (WJSC) editorial board member	Editorial board member
3 Annals of translational research and epidemiology	Annals of translational research and epidemiology editorial board member	Editorial board member
4 公益社団法人全国老人保健施設協会	介護老人保健施設における医療提供実態に関する調査研究事業	班員

野田 龍也

省庁	職務内容	役職
1 スポーツ庁 三菱総研	スポーツ・レクリエーション活動を通じた健康寿命延伸事業 協力者会議	委員
2 奈良県健康長寿共同事業実行委員会	奈良県健康長寿共同事業実行委員会 有識者会議	専門家
3 全国健康保険協会本部	全国健康保険協会健康・医療情報分析アドバイザー	委員

岡本 左和子

省庁	職務内容	役職
1 奈良医大校内	奈良県立医科大学附属病院ホスピタリティ向上委員会	委員
2 東京都福祉保健局	医療情報に関する理解を促進する会	委員

51 奈良県立医科大学 健康政策医学講座

健康政策医学 研究関連情報

以上
ご清聴ありがとうございました

52 奈良県立医科大学 健康政策医学講座